

6. 苦しみの中の恵み

ペテロの手紙#6

<https://ichthys.com/Pet6.htm>

ロバート・D・ルギンビル博士著

第一ペテロ 1:1-2 の改訂訳：

イエス・キリストの使徒であるペテロから、父なる神の予知により、聖霊によって聖別され、イエス・キリストの血の注ぎかけのもとに服従するために、選ばれた人々、すなわちポントス、ガラテヤ、カパドキア、アジア、ビテニヤの各地に散らされ追放された人たちへ。あなたがたに恵みと平和が増し加わるように！

復習：ここで少し立ち止まり、これまで取り上げてきた「苦しみ」と「霊的成長」との関係を、先ほどの聖句と結びつけて振り返ってみましょう。ペテロの手紙を受け取った信者たちは、当時大きな苦難に直面していました。その困難の中で彼らは神に疑念を抱き始め、その結果として霊的成長が危険にさらされていたのです。そこでペテロは彼らを「選ばれて追放された人達」と呼び、彼らの苦しみを認めつつも、「神は決してあなたがたを忘れてはいない」と思い起こさせています。この呼びかけには、彼らが直面していた試練を軽んじるのではなく、むしろ神の選びと愛の視点からその試練を受け止め直し、霊的成長へとつなげるようにとの深い配慮が込められているのです。

信仰生活の試練： 信者が「選ばれた者」であると同時に「追放された人達」でもあるという一見矛盾した状況を説明するために、私たちはすでに神のご計画について学びました(特に第 3 課参照)。すなわち、神は私たちが信じた瞬間にこの世から取り去るのではなく、信者をこの世に残されます。その目的は、信者が霊的に成長し、また他の信者を助けて共に成長するためです。この自由意志の試練を通して、私たちは人生の浮き沈みにもかかわらず「主を何よりも愛している」ことを示す機会を与えられています。そして同時に、神は私たちに「どのような困難の中にあっても、守り、祝福し、完全な喜びを与えることがおできになる」ことを示してくださるのです。

神の無限の能力： 信仰を持たない者は、この世における苦しみを神の助けも支えもなしに経験し、死後には裁きを待つのみです。しかし、信者である私たちは違います。私たちには、人生に訪れる苦しみに対処するための、神の尽きることのない大いなる恵みが備えられており、さらに来るべき世においては二度と苦しむことがないという確かな保証を持っています。また、苦しみにもかかわらず神を信頼し続けることによって、

私たちは霊的に成長し、その成長と御業の実りに応じて永遠に報いを受けることを知っています。クリスチャンの人生は絶え間ない戦いであり、その戦いは、主に顔と顔を合わせるその時まで終わることはありません。

戦場：この絶え間ない戦いの主たる戦場は、私たちの思い、すなわちこころ(内なる自己)です。したがって、苦しみに対して正しい視点を持ち続けるために、常に警戒を怠らないことが必要です。罪への誘惑は、敵であるサタンの明白な策略の一つですが、苦難や試練の経験はもっと微妙で陰險な攻撃の形です。ペテロの読者たちが直面していたのは、まさにこのような逆境という巧妙な罠でした。逆境は、信じる者に、神の助ける能力への信仰を失わせる傾向があります。苦難を経験すると、信仰者は「神よ、なぜ私に？」と言いたくなります。ところで、これはとても危険な考え方です。なぜなら、そのような態度が続くと、信仰者は必然的に、問題の原因を神になすりつけるか(「神は私のことなど気にかけていない！」)、あるいは自分自身を責めるようになるからです(「私は何かひどい罪を犯したに違いない！」)。これらの一般的な疑念をもう少し詳しく調べてみましょう：

誤った問いその 1：「まだこんなに苦しい！神は私のことを気にかけてくださらないのでは？」

これまで見てきたように、苦しみはすべての信仰者のための神のご計画の一部です([第一ペテロ 4 章 12 節](#))。苦しみなしには霊的成長はあり得ません([ヤコブ 1 章 2-5 節](#))。神は逆境を通して私たちを試み、私たちの信仰を強め、ご自身の真実を証明しようとされます。そしてさらに、私たち自身や周囲の人々に、私たちが霊的に成長し、順境にあっても逆境にあっても神に信頼できる準備が整っていることを示すためなのです。

二つ目の誤った結論(苦しみは過去の罪に対するある種の「神の仕返し」に違いがないという考え)も非常に危険です。実際には「苦しみ」という言葉で呼ぶことは信者にとってやや誤解を招く表現です。なぜなら、信仰者が経験する困難は、不信仰者のそれとは本質的に異なるからです。神が私たちに逆境をお許しになる「否定的な理由」はただ一つ——神の懲らしめ([ヘブル 12 章 1-13 節](#))です。しかしその場合であっても、神は怒れる裁き主として私たちを罰するのではなく、愛する父として、私たちの益のために正してくださるのです。さらに、もし私たちが罪を告白すれば、その失敗から生じた残りの苦しみは「祝福のための苦しみ」へと変わります。なぜなら、神との交わりが回復した瞬間から、その苦しみを乗り越えるために神ご自身の慰めと助けが与えられるからです。その他のすべての苦しみ(第 5 課で学んだ内容)は、私たちの益のために神の

ご計画の一部として与えられるものです([ローマ 8 章 28 節](#))。そのような試練の時には、神に信頼し寄りかかることを学ばなければなりません。なぜなら、神は確かに「私たちが心にかけていてくださる」からです([第一ペテロ 5 章 7 節](#))。

誤った問いその 2：「まだ痛みます！神はまだ私に腹を立ておられるのでしょうか？」

私たちが自分の罪を神に告白するなら、神はただちに、そして無条件に赦してください([第一ヨハネ 1 章 9 節](#))。罪を認めて神との交わりに立ち返るとき、私たちの人生に起こる逆境はもはや害のためではなく、祝福のためのものとなります([第一コリント 11 章 31 節](#))。もちろん、へりくだった心を持つことはふさわしく、私たちは自分の行いを悔いることもあるでしょう(また懲らしめを受けたことを心から残念に思うかもしれません)。しかし、度を越した罪悪感は、神への反感と同じように場違いです。神は逆境の中にあっても、私たちが幸せを味わい、祝福と力を経験することを望んでおられるからです。このことを覚えているなら、私たちがこの世で直面するどんな事柄によっても、必要以上に落ち込む理由はありません。神は、私たちがご自分の計画の中で忍耐するだけでなく、その過程で平安と喜びを体験できるようにしてくださっています。もし罪を告白したあとにも「まだ痛みが残る」と感じるなら、忘れてはならないのは「神は私たちに怒っておられるのではない」ということです。懲らしめの残る痛みは、愛に満ちた神が、私たちが同じ過ちを繰り返さないようにとの願いから与えられるものです。それは、わが子を懲らしめるときに、その苦しみを共に痛む親の姿にたとえることができます。

苦しみに対処するための神の恵みの備え：

1. 神の全体的な恵みの方針

聖書は、私たちが「恵みにより、信仰によって救われたのであって、それは自分から出たものではなく、神の賜物である。行いによるのではない」([エペソ 2 章 8-9 節](#))と語っています。恵みとは、罪深い人間に対する神の完全なご計画です。神が働かれ、私たちはその益を受けるのです。聖書は、私たちの行いが救いに何ひとつ加わることはないとはっきりと教えています。救いは、ただイエス・キリストの御業によってのみ与えられます。キリストは十字架の上で、私たちすべての者のために苦しみ、死んでくださいました。神がこのことをしてくださったのは「恵み」によってであり、つまりそれは、報酬ではなく賜物として、自由に、惜しみなく与えてくださったものなのです。したがって、私たちはイエス・キリストを信じるときに救われるのです。この救いの結果として、私たちは「希望」(ギリシヤ語 *ἐλπίς* エルピス「望み」)をもって、再び苦しむことのない日を確

信をもって待ち望むことができます。イエス・キリストは、私たちの罪のために、そして私たちの代わりに裁きを受けられることによって、神のご計画における唯一の真に功績ある御業を成し遂げられました。そのことによって、信じる者すべてに対して、神の恵みという偉大な「宝の蔵」が開かれたのです。

神が私たちを取り扱われる方法は、救われる前も、救われた後も、基本的には同じです。それは「恵み」によるのです。救われた後、私たちは神の子どもとして数えきれないほどの素晴らしい祝福を受けます。最初であり最大の祝福は「救い」であり、それによって永遠のいのちへの確信を持つことができます(そこでは、あらゆる痛みや苦しみ永久に取り去られる、喜びに満ちた未来が待っています)。しかし、祝福はそれだけではありません。キリストの御業によって、そして私たちがその御業を信仰によって受け入れることによって、信じる者はこの地上での人生においても神の恵みを受ける者とされているのです([ローマ 6 章 14-15 節](#))。

「恵み」を表すギリシヤ語は charis(カリス, $\chi \acute{\alpha} \rho \iota \varsigma$) です。この charis には「好意」や「善意」という意味があります。人間はみな、罪をもって生まれます(これは人類の墮落の結果による遺産です。[ローマ 7 章 20 節](#)参照)。しかし私たちがイエス・キリストを救い主として受け入れるとき、神の私たちに対する態度は「敵意」から「親切」へと変えられるのです([エペソ 2 章 3-7 節](#))。私たちは今や神の子どもとされ、神は愛をもって私たちを見守ってくださいます。詩篇の作者はこう表現しています。「わたしは若かった時も、年老いた今も、正しい人が捨てられ、その子孫が食べ物を乞うのを見たことがない」([詩篇 37 篇 25 節](#))。この「恵み」すなわち神の好意や親切の力と広がり限定するのは難しいほどです。なぜなら、それは信じる私たちの人生のすべての面に及ぶからです。神は今や私たちを愛する子どもとして扱い、絶えず必要なものを備え、気を配ってくださいます([マタイ 6 章 25-34 節](#))。神が私たちの必要を満たすことにおいて忠実でなかった時は一度もありません。神がご自分のなすべきことを果たすのをやめられることは決してないのです。私たちのなすべきことは、この事実を思い起こし、神は決して私たちを見捨てないと信頼することだけです。

2. 神の主要な恵みの手段 — 苦しみに対処するための真理：「真理」こそが、人生の問題に効果的に立ち向かい、それら进行处理するための主要な道具です。ここには少し説明が必要です。私たちの困難を助ける「真理」とは、心に根ざし、完全に理解され、信じられ、そして実際の困難に適用される「真理」です。聖書に書かれていても、私たちの心に根付いていなければ、困難が訪れた時に何の役にも立ちません。また、聖書の節や聖書的原則に精通していても、それを信じようとしなければ、逆境に立ち向かう際に役立つことはありません。実際、もし神が私たちのために備えてくださらなか

ったとしたら、私たちが苦しみに対処できる可能性がどこにあるでしょうか。
([ローマ 10 章 14-15 節](#))。

しかし、神は私たちのために備えてくださっています。神は、食物・住まい・衣服を与え、さらに「教科書」(聖書)、集会の場、教師、そして多くの支援者を備えてくださいました(というのも、すべての信者はキリストのからだ全体の霊的成長と益のために働く霊的賜物をそれぞれ授かっているからです)。こうして私たちは、霊的成長を追求するために必要なすべてを与えられています。私たちに必要なのは「信仰を持ち寄ること」だけです。神は、ご自分の御言葉のすべての真理が、(私たちが御子イエス・キリストを信じたときと同じように)私たちの心の中で信仰と結びつくことを望んでおられます。したがって、神が望まれる方法で逆境に取り組むためには、このテーマ(そして他のすべてのテーマ)について神が何を語っておられるのかを知り、その御言葉を信じ、直面する問題に適用する必要があります。究極的には、霊的成長には「神の御旨全体を学ぶ」ことが求められます。自分の関心をひいた話題や現在の状況に関わるテーマだけに限定するのではなく、人生のあらゆる状況(苦しみを含む)に備えるために、聖書に含まれる真理を聞き、信じ、実践することが神のご意志です。神はそのために聖書と教師、そしてその真理の原則を学ぶ手段と機会を備えてくださったのです。

3. 苦しみに関する真理の原則：

1. 神は、私たちの人生において(苦しみを含む)すべてのことを、私たちの益のために働かせておられます([ローマ 8 章 28 節](#)、[創世記 50 章 20 節](#))。
2. 耐え忍ぶことは霊的な成長と報いが伴うと知って、苦しみの中にあっても、私たちは幸福を得ることができます([ローマ 5 章 3-4 節](#)；[第二コリント 4 章 17 節](#)；[第一テサロニケ 5 章 18 節](#)；[ヤコブ 1 章 2-4 節](#)；[第一ペテロ 1 章 5-8 節](#)，[4 章 13 節](#))
3. 私たちは、主が決して私たちに耐えられない重荷を負わせることはなさらず、必ず脱出の道を備えてくださるという確信のうちに慰めを得ることができます。その「脱出口」は、ときに苦しみを避けて通る道であるかもしれませんが、あるいはむしろ、その苦しみを通り抜けていく道であるかもしれません。([第一コリント 10 章 13 節](#))。
4. 主が苦しみをお許しになるとき、それには往々にして、私たちにはすぐには分からない目的があります。サレプタのやもめの子の死とよみがえりは、彼女が主を信じるきっかけとなりました([列王記上 17 章 24 節](#))。ラザロの死とよみがえりは、主ご自身にと

って非常に痛ましい出来事でしたが、それによって人々の信仰が育まれたゆえに、主はそれを喜ばれました([ヨハネ 11 章 15 節](#))。ヨハネ 9 章に出てくる生まれつき足の不自由な人も、誰かの罪のためにそう生まれたのではなく、いやされるときに神の栄光が現されるためでした([ヨハネ 9 章 3 節](#))。また、ヨブが経験した苦しみは非常に大きなものでしたが、彼が忍耐して耐えたことは今や「ヨブの忍耐」として格言となるほどです。しかし彼自身は、主が彼を用いてご自分の力と栄光を現しておられることを知りませんでした([ヨブ 1 章 8 節](#), [2 章 3 節](#), [42 章 10 節](#)参照)。私たち自身や兄弟姉妹がこの世で受けるすべての苦しみの理由を完全に理解することはできませんが、主にはそれをお許しになる最善の理由があるということを忘れてはなりません。だからこそ、私たちはこれからも主を信頼し続けるのです。

5. 私たちが経験する苦しみは、確かにある「益」をもたらします。それは、自分自身が苦難を通して得た経験をもとに、他の人が試練の時を迎えたときに助けとなることができる、という益です。なぜなら、この人生においては、私たち誰もが何らかの困難を耐え忍ばなければならないからです。([第 2 コリント 1 章 3-7 節](#); [第一ペテロ 4 章 12 節](#), [5 章 9 節](#))。

6. 私たちはまた、聖書にある実例から、苦しみの中で励ましを得ることができます。聖書には、私たちの想像を絶する苦しみを受けなければならなかった仲間の事例がたくさんあります。ヨブやエレミヤ、ダニエルやエゼキエルの苦難を読むだけでも十分ですし、言うなれば、神に喜ばれた著名な信仰者のほとんどすべてが苦しみを味わったのです。しかし、彼らは個々の困難に耐え抜いただけでなく、なお主を愛し、主を信頼し続け、苦難の中にあっても霊的成長を保ち、進展させていきました。ヘブル人への手紙 11 章の著者は、この現象を一覧にし、「彼らの信仰によって」過去の偉大な信仰者たちは人生の様々な試練や苦難に打ち勝つことができたと言っています。彼らは、神が世の富すべてにまさる「よりすぐれたもの」を備えてくださっていることを知っていたのです。何よりも、私たちの主が私たちのために苦しまれたのです。それは、私たちが永遠に平和と幸福のうちに生きることができるようにするためでした。([第一ペテロ 2 章 21](#), [4 章 1 節](#))。

結論：最後に、私たちが忘れてはならないのは、神が慰め主である聖霊を与えてくださったということです([ヨハネ 14 章 16 節](#))。もし私たちがただ心を静めて主を信頼するのなら、聖霊が私たちを助け、慰め、そして今の痛みを超えた喜びで心を満たしてください。痛みがどれほど深くても、苦しみがどれほど激しくても、それを超える喜びを与えてくださるのです([第一ペテロ 4 章 14 節](#); [ローマ 5 章 3-5 節](#))。